

平成 29 年度 関西福祉科学大学 卒業・修了証書 学位記授与式 学長式辞（全文）

大学正門脇の桜が咲き初める穏やかなこの良き日に、学部を卒業する皆さん、大学院を修了する皆さん、おめでとうございます。教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

はじめに、入学以来、志を持続させ、今日の日を迎えられた皆さんの頑張りに敬意を表します。また、今日まで、卒業の日を楽しみに支えてこられた保護者の皆様にも心からお慶びを申し上げます。同時に、本学の教育活動にご理解とご支援をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

来賓の皆さまには、ご多忙のなかお越しくださり、共に卒業をお祝いくださることに感謝申し上げます。

本学を卒業・修了する皆さんに3つのことを申し上げ、お祝いの言葉に換えたいと思います。

まず第1は、感謝の気持ちを忘れてはならないということです。ご家族はもとより、多くの人々が皆さんの成長に関わったことは良く理解しているはずで、自分の力だけでは幸せな人生を送ることは出来ません。感謝の念を持ち、「ありがとう」と口に出すことを勧めます。本学の設立理念である、「感恩」の言葉を常に思い起こして、本学で学び育てた感性を持ち続けてください。

第2は、多様性を受容し、共生により未来を創造することが、本学を卒業し、社会人となる皆さんの使命であることを忘れないで欲しいということです。ここ1年を振り返りますと、〇〇ファーストという表現が大流行りでした。この考え方は、突き詰めれば自分あるいは自分の仲間以外のものはどうでも良い、自分たちだけが大事ということです。自分たちだけの利益を求め、そのための主張を成立させようとする姿勢は、「全ての人々が幸せな福祉社会の構築に、科学的に取り組むこと」を目指す本学の設立理念とは相いれません。これらは、自由、平等、人権、博愛、民主主義、さらには多様性の受容など、近代から現在まで、先人の努力によって人類共有の倫理となったものを歪めることにつながる恐れがあるからです。



世の中には自分と異なる多様な人間が存在することを了解し、共に生きていかねばなりません。そのためには、高度な知性、優しさ、想像力と、確かな倫理観が必要です。しかし、その獲得は簡単なことではありません。

その獲得のためには、人間の多様性への知識、そして相手が何を望むのか、どのような考え方を持つのかを的確に推論する力が必要です。それらは、自分ファーストのような、自分が好きで面白いと考えるものだけを対象にし、自己中心の小さな世界に閉じこもる生き方からは育たないと思います。受け身ではなく、自らから進んで様々な事柄を学ぼうとする意志を持ち続けてくれるよう望みます。そのような人材を社会に送り出すことが、本学の社会的使命だからです。

第3は、平和を志向することを自分の生き方の基本として欲しいということです。皆さんは、福祉社会の実現を科学の目を持って取り組むことを理念とした大学で学びました。福祉の基本は平和であることが第一の条件です。平和でない社会で、人々に他者への思いやりを求めることは容易ではありません。私は最近のアジア情勢やそれに伴う我が国の対応には、平和から乖離する方向性が伺えるように思われ、危惧しています。皆さんは、将来何があっても平和を志向することで、本学で学んだ意義を忘れずに行動してください。

大規模大学でないメリットとして、本学の教職員は皆さん一人一人を知っています。個人として誰なのかを分かっています。困難に出会ったら、これからも教職員に連絡を取り、そのつながりを活用して下さい。

最後に、今日卒業・修了する皆さんが、自らのいのちと、心身の健康に留意され、生き活きと幸せな人生を送られることを心からお祈りし、お祝いの言葉とします。

平成 30 年 3 月 23 日

関西福祉科学大学 学長 八田武志